

第7期北方領土隣接地域振興計画 実施計画

市 町 名	中標津町
重点施策名	5 災害に強い地域づくりに向けた基盤整備

1 目指す目標(長期目標)
日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域にある当地域において地震の発生に伴う被害を最小限に抑えるとともに、冬期間の暴風雪災害の防止・軽減を図るため、社会資本整備等を促進する。また、根室管内自治体の防災協定や住民主体となって災害に備えるなど官民一体となった防災体制整備をすすめる。

2 目標達成に必要な対象群の変化内容		
番号	変化や働きかけを行う対象群	必要な変化(維持する内容)
1	町内及び町外への幹線道路	道路交通の高速化やアクセス向上を図るとともに冬期交通の安全性を確保した整備をすすめる。
2	北方領土隣接地域における防災体制	平常時及び災害時における防災に関する隣接地域市町村間の連携強化
3	中標津町地域防災計画	国・北海道の防災計画の修正に即した地域防災計画に改め、適切な運用に努める。
4	中標津町防災備蓄品等	適切な数量の備蓄品確保と管理を行う。
5	町立中標津病院	地域災害拠点病院として災害時の医療確保及び搬送体制の整備を図る。

3 2の変化(維持)を実現するためのプロセス(工程表)				
番号	実施する内容	実施主体	実施期間	実施による到達レベル
1	地域高規格道路の整備	国、道	H25～	地域高規格道路化率の着実な向上(H24年度末)
2	根室管内5市町防災基本協定の締結	道、隣接地域、町	H25～29	根室管内5市町防災基本協定の締結
3	防災対策の推進	町	H25～	中標津町地域防災計画の見直し
4	防災備蓄品、防災資機材及び情報通信機器等の整備	町	H25～	防災備蓄品・資機材・情報通信機器等の整備計画による確保
5	地域災害拠点病院である町立中標津病院の機能を維持する	町	H25～	医療器械器具購入計画による計画的な更新及び医療専門職の確保(H24年度末)
6				

第7期北方領土隣接地域振興計画 実施計画

市 町 名	中標津町
重 点 施 策 名	5 災害に強い地域づくりに向けた基盤整備

1 目標達成に向けた内的外的な課題及び現状認識		
内部環境 (市町及び 地域の関係 者の経営資 源)	強み	【強み】海に面しておらず甚大な津波被害が想定されていないことに加え、地域センター病院である町立中標津病院は、平成23年11月に地域災害拠点病院に指定されるなど、隣接地域の拠点となっている。
	弱み	【弱み】広大な面積を有する本町において、災害への速やかな対応に時間を要する場合は懸念されている。
外部環境 (市町を取り 巻く環境)	機会	【機会】東日本大震災を契機に防災体制の見直し、強化を進めている。
	脅威	【弱み】当町が日本海溝・千島海溝周辺型地震防災対策推進地域内に位置していること

2 参考とする指標
<ul style="list-style-type: none"> ・根室管内5市町村による防災基本協定締結(平成25年8月23日) [実施取組]担当者会議の開催(年1,2回程度)、各市町村の備蓄計画に係るガイドライン作成、各市町村の備蓄品の情報共有、各市町村の防災会議や研修の実施情報共有 ・地域高規格道路釧路中標津道路=計画区間100kmのうち供用区間19.2km(H27年度末) ・地域高規格道路根室中標津道路=計画区間40kmのうち 供用区間8.1km(H27年度末) ・地域防災計画の改訂状況 [平成25年度完了] ・地域防災計画の改訂にあわせて、防災備蓄品及び防災資機材の整備計画方針を示した「災害時備蓄計画」を策定[平成25年度完了] ・まちづくり町民アンケート結果[地域医療、救急・災害時医療体制に満足している割合] H26年度～42.5%、H27年度～42.8%、平成28年度～38.5% ・医療器械器具購入決算額 H26年度～87,753千円、平成27年度～403,400千円 ・医師数(嘱託含) H24年度末～ 23人、H25年度末～ 24人、平成26年度末～ 25人、平成27年度末～ 22人 ・看護師数 H24年度末～110人、H25年度末～115人、平成26年度末～114人、平成27年度末～107人 ・医療技師数 H24年度末～ 41人、H25年度末～ 39人、平成26年度末～ 37人、平成27年度末～ 40人

3 民間が実施主体の場合に市町が行う取組促進の内容